

第5回

布育のすすめ②～おばけパペット作り～



講師 さとう ゆきこ 氏

子どもは、遊びの中で育つ

子どもは遊びの天才ですが、子どもたちだけではなかなか豊かな遊びは始まりません。そこにおもちやがあることで遊びが広がっていきます。その積み重ねで、健やかな心と体の成長や発達につながっていきます。

布おもちゃについて

私はもともと昔から手芸が好きでした。保育士をしていた頃にも「こんなおもちゃがあったらいいな」という思いがあり、作っていましたが、仕事をしながら時間を見つけて作るというのはなかなか難しかったので、いったん保育士の仕事を辞め、作りたかった布おもちゃ作りに専念することにしました。布おもちゃをもっと広めたいと思い、保育士さんたちに布おもちゃの紹介をしていましたが、「作りたいたいと思っても材料、形、大きさ等、一から全てを考えて作るのは先が長くて手が付けられない。それは、忙しい保育者にとってとても大変だ」ということを感じ、キットを用意すればもっと気軽に布おもちゃ作りに取り掛かれるかなと思い、布おもちゃ作家としてだけでなく、作り方を紹介する布育協会を始めました。

布おもちゃはかわいくきれいに作って終わりではなく、「作ったおもちゃで子どもたちがいかに楽しく遊べるか、作った大人も子どもが楽しんでいる様子に嬉しくなったり、子どもの成長に気付いたりできるといいな」と思いながら、活動を続けています。

おばけパペットを作ろう

◆材料

- ・布（フリース2枚） ・ウォッシュャブルフェルト
- ・糸 ・ロープ

◆素材のポイント

【フリース】

- ・ポリエステル100%
- ・ふわふわ
- ・水洗いができる
(毛玉になりにくい)
- ・伸縮性がある
(一方向に)
- ・ほつれにくい

【ウォッシュャブルフェルト】

- ・洗えるフェルト
- ・ポリエステル100%
- （ウール（毛）が入っていないので縮まない）
- ・意外と伸びるが縮まない
- ・ほつれない
- ・やや毛玉がしやすい

おばけパペットの作り方

① フェルトを目・口等の形に切ります。

黒い目だけでなく、子どもが大好きな絵本に出てくるおばけのような目にしても楽しいです。同じ目の形に切ろうとして、フェルトを2枚重ねていっぺんに切ろうとすると、厚みがあるため切るのが難しく同じ形になりません。型紙で一枚ずつ作る方がよいでしょう。

口を刺しゅうにしたい人は、フェルトに下書きをしておくといよいでしょう。

布に下書きをするのに便利なのが、フリクションペンです。今回は、ボールペンタイプのものではなく、サインペンタイプのフリクションペ

ンを使用しました。フリクションペンの特徴は、摩擦熱を加えると消えます。ですから、下書きをし、完成したらアイロンやドライヤーの熱を加えるときれいに消えます。ただし、布によってはアイロン等、高温の熱に弱いものもありますので、注意してください。

- ② フリース生地の上に、目・口等を配置し、待ち針で留めます。

〈気をつけるポイント〉

周囲 1 cmは縫い代になるので、やや中央よりに配置します。目は、手のロープを付ける位置より上に配置するとよいでしょう。

- ③ たてまつりで縫いつけます。

・口はバック・ステッチで刺繍

※赤刺しゅう糸 2本どり

- ④ フリース 2枚を中表（顔のパーツが付いている方が内側）に重ねます。

- ⑤ フェルトでロープをはさみます。

・ロープはほつれやすいので、結び目をつけてほつれないようにします。結び目をつけることで重さが出て、つけた時にだらんと下がるのでおばけらしくなります。

・結び目が内側にくるようにし、内側が長くなるようにします。

- ⑥ 下書きの線の上ではなく、線のそばに待ち針を打ちます。（おばけのしっぽがずれてしまわないように、しっぽの近くから待ち針を打ちます。）

- ⑦ 返し口を残し、線上を半返し縫いします。

・下に印が付いているところは、手を入れるところですので縫い合わせないようにしてください。

・布がふわふわしているので、縫い方もふわふわと縫いたくなくなってしまうところですが、ふわふわの布をしっかりと縫い合わせるために、ひと針ひと針キュッキュッと引き締めながら縫っていきます。

・ウォッシュャブルフェルトのようなふわふわしている生地は、普段手芸に慣れている人でも縫いにくいのですが、半返し縫いは手芸に慣れていない人でも細かく縫うことができます。

※白刺しゅう糸 1本どり

- ⑧ 返し口から、裏返します。

裏返してから、手のロープを抜けないか引っ張ってみてください。抜けてしまいそうだったらもう一度元に戻して、ロープのところを上から縫って補強してください。

- ⑨ 返し口部分の縫い代をそれぞれ内側に折り込み、なみ縫いをします。

◆ステッチの紹介

ステッチの詳しい縫い方は、動画を YouTube「布育チャンネル」でも配信していますので、気になる方はご覧ください。

【たてまつり】

フェルトなどをアップリケする時に使います。

【バック・ステッチ】

線の刺しゅうする時に使います。

【半返し縫い】

布を重ねて縫い合わせます。細かく丈夫に縫えます。綿を詰める場合や、厚い生地・伸縮性のある生地に最適です。

【なみ縫い】

布を重ねて縫い合わせる、基本的な縫い方。点線のステッチにも適しています。

顔の表情

今日の皆さんの作ったおぼけの表情はどうでしょうか。かわいい表情でしょうか。こわい表情でしょうか。顔のパーツの付け方によって、同じ形でも随分雰囲気が変わってきます。

節分の時に鬼の布おもちゃを作りますが、あまりこわい表情にすると子どもがこわがって遊べなくなってしまう。だからと言って、かわいい表情にすると豆を投げつける時にかわいそうな気持ちになってしまいます。そのおもちゃをどう使うかどうやって遊ぶかによって、表情を考えていくとよいです。例のように考えてみましたので、参考にしてください。

〈表情の例〉

【かわいい】

【こわい】

つの…短い、丸っこい	長い、尖っている
眉毛…垂れ眉、細い、短い	上がり眉、太い、濃い
目…垂れ目、黒目がち	上がり目、三白眼
口…口角が上がる(笑顔)	口角が下がる(怒り顔)
牙…上2本、短い	上下4本、長く鋭い

おぼけは、こわい？

おぼけは子どもにとってこわいものなので、つい子育てや保育の中で「～しないと、おぼけが来るよ」と言って、子どもに大人のいうことを聞かせるためにおぼけを使ってしまうものです。

おぼけだけではなく、鬼や雷、子どもの嫌いなものでいうと虫や注射なども同じです。しつけと称して子どもの脅し文句にこれらを使うことに疑問を感じます。私は今回おぼけを楽しんでほしくて紹介をしました。

子どもによっては、かわいいおぼけだとしてもおぼけというだけでこわがる子がいます。子ども

にとって「楽しめるこわいもの」と「本当にこわいもの」というのは、月齢や子どもの性格によっても違います。

子どもにとって、危険なこと、絶対やってほしくないことがあります。「暗くなる前に家に帰る」や「深い川には近づかない」等、危険を回避するために、理屈を説明してもわからない小さな子どもに、鬼や東北のなまはげなどを生活の知恵として使ってきた文化があります。一つのしつけの形であったと思いますが、それを日常の保育の中で簡単に使ってしまうのは、違うのではないかと思います。子どもには、とても効果のある言葉かもしれませんが、習慣化して使うことのないよう自分の保育を振り返ってください。今日作ったおぼけパペットは、子どもたちにしつけとして使うのではなく、楽しく遊ぶために使ってください。

私が保育士だった頃、仕事中の保育でも園児に怒ってばかりいて、家にいる時も我が子に怒ってばかりの時がありました。もっと優しい自分でありたいのに、注意してばかりいることが辛くなっていました。そこから抜け出す方法として、人を傷つけたり嘘をついたり悪いことをした時には、注意しますが、何かができるのにできなかった時には、怒らず待つことにしました。子どももいろいろな心と体の状態があるので、いつもベストは尽くせませんので、そのあたりを考慮してあげてください。

パペットにできることって？～驚きを大切に～

○スキンシップ

フリースはふわふわして気持ちがいいので、子どもの頬を触ってあげたりすると喜びます。4～5月の子どもたちと信頼関係を築く前にパペットを使って話しかけると、警戒している子どもたちの心がほぐれ親しみやすくなります。

○人形劇

様々な物語の役を演じることができます。

○歌

「おばけなんてないさ」の歌を歌う時にこのおばけパペットを使って一緒に歌うと、小さい子でもイメージが付きやすくなります。

○絵本

その絵本に登場してくるキャラクターがパペットで出てきたら、その絵本から抜け出てきたようで楽しくなります。また、大好きな絵本を繰り返し読んで覚えてしまったら、そのキャラクターのパペットを出しただけで、絵本の世界を再現して遊ぶようになります。

○追いかっこ

子どもにとって、ちょっとこわい存在のおばけのパペットで「待て、待て～」と子どもたちを追いかけると、子どもたちは普通の鬼ごっこよりスリルを感じて、喜びます。また、おばけパペットが鬼ということで、鬼役が誰にでも一目見てわかるようになります。

○イベント（ハロウィン・肝試し遠足・お散歩）

行事の時に、ちょっと子どもたちの注目を集めたい場合に最適です。このおばけパペットは、折りたたむと小さくなるのでポケットに入れて、すぐに出すことができます。

○保育者の気持ちを代弁

子どもは、保育者が話すことよりパペットが話すことに耳を傾けることがあります。子どもの興味を引き付けます。

パペットの魅力は、ぬいぐるみと違って動くししゃべります。それを見た子どもたちは「やってみたい」と言うようになります。パペットやペーパーサートを保育者がやってみせるのを子どもたちは見る側が多いですが、実は自分たちも保育者のようにやってみたいと思っているはずです。パペットを保育者だけのアイテムにせず、子どもたちと一緒に楽しんでください。

パペットのアレンジ例

○大きさを変える

今日作ったおばけパペットの型紙を拡大や縮小でコピーすると、大きさの違うおばけパペットができます。そうすることで、きょうだいだったり親子だったりという設定ができ、物語が生まれてきます。

○表情をいろいろ

かわいい こわい

○素材を変える

（トレーナー生地やタオルなど）

○ぬいぐるみ

パペットの手を入れるところから綿を入れ、手を縫い閉じるとぬいぐるみとしても遊ぶことができます。

今日のおばけパペットですが、「どんなふう子どもたちと遊ぼうかな」と考えながら作ることに価値があります。ぜひ、保育の中で活用してください。



第5回 焼津市保育者資質向上研修会
令和3年10月22日（金）
新型コロナ対応のため、オンライン（各園）・
焼津市役所大会議室1Bで開催